

生まれて来てよかった(マルコ 14:17-21)

あまりにも理不尽でつらいことが多いと、つい生まれない方がよかったかと思う人がいます。親が望んで生まれたわけではなくて、親のミスによって生まれたということが後で分かって、私は望まれて生まれた子ではない。だから生まれない方がよかったかと思う人がいます。また、望まれて生まれたかもしれませんが、親に虐待されることで私は価値のない人間ではないのかと思い、つい生まれない方がよかったかと思う子どももいます。場合によっては、親のいろいろな都合、またエゴなどによって親に捨てられた経験をする子どもの場合、そんなに私は価値のない人間なのかと思い、生まれなかった方がよかったかもしれないとついつい吐いたりします。また学校や、あるいは周りの人からいじめられた時、最初はいじめる側を憎みますが、後には自己嫌悪に陥って、こんなにいじめられるほど私はダメな人間なのかとつい思い、生まれない方がよかったと思ったりもします。また、生まれてみたら他の人にはない障害を抱えていて、比較して何で私にはこういう障害があるのだろうか。もうこんなもんだったら生まれない方がよかったかもしれないとついつい思います。また、あまりにも耐えがたいつらい環境に置かれた場合も、また人間的な外見を見た時、人と比べてあまりにもひどいと思われる場合にも生まれない方がよかったかと思いついて思います。ある人は大きな過ちを犯したり、また大変な失敗をしてしまいます。そのことで私は生きる価値などないのではないかと思ったりもします。最近ある有名な人による性加害の問題が社会問題になり、また国際問題にもなっています。その性被害を受けたほとんどの人々は、自分の存在価値について否定的です。このような自己嫌悪と言いますか否定的なセルフイメージがエスカレートしてしまうと、結局は自分の存在を消す方向に走って行ってしまいます。このようなことで私は生きる価値などあるのだろうか。生まれない方がよかったかと思いついていますが、ここで信者の私たちは、真剣に本当にそのような理不尽なこと、つらいことが生まれない方がよかったと思える根拠、材料になれるものなのかと疑問を投げかけなければいけません。聖書を見ますと一言もそういうことは書かれていないし、そんなことはありませんよと訴えています。聖書はそのような呪縛から解放、解き放たれる答えを教えています。今日の聖書を見ますと、イエス様が最後の過越を守るために最後の晩餐とも言われる場面で、「この中の誰かひとりがわたしを裏切ります」と言及します。その後、「わたしは旧約の預言通りに去っていきます。しかし、そうさせるように加担していた裏切り者はわざわざであり、生まれなかった方がよかったかも」ということをおっしゃるんですね。このイエス様のお言葉を通して、本当に生まれない方がよかった人とはどんな人なのかということを確認していきたいと思えます。どのようにして生まれてよかったのか、生まれない方がよかったのかを見極めることができるのかということをお話を通して正しく理解していきたいと思えます。

1. 霊的世界を知る時、初めてその人生が幸いかかわざわいかが見極められる。

まず第一に、霊的世界を知る時に初めてその人が幸いなのかかわざわいなのかを見極めることができるようになります。つまり、霊的な世界を知るまでの自己評価というものはあてにならないということです。

生まれてよかったと喜ぶ人、生まれない方がよかったかもと悲しむ人、その自己評価そのものが霊的世界を全く知らないままの評価なのであてになりません。まずこのことを信者の私たちがしっかりと心に留めなければなりません。

聖書にはこのように書かれています。ヨハネ 14:30 を見ますと、「わたしは、もう、あなたがたに多くは話すまい。この世を支配する者が来るからです。彼はわたしに対して何もすることはできません」。この世を支配する者がいる。目に見えないけれどもこの世を支配する者、世の神と言われている悪魔サタンが存在しています。エプソ 2:2 にも「そのころは、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊」と言われている者がいるのです。私たちの肉眼、この目には見えません。それから黙示録 12:9 にも、「こうして、この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇」と言われるものがあるということをお話を通してクリスチャンの私たちの他に誰も知ることはできません。

1) 人を神様から引き離して滅ぼすサタンのしわざ

この世の神と言われている悪魔サタンというものが、人々を神様から引き離すことをしています。これが霊の世界なのです。そして、神から離れている人間が二度と神様に返ることができないように、あらゆる策略を持って人を引き留める働きをしています。これが霊の世界です。そのために悪魔サタンは世の風習を作り出して、宗教や偶像や占い等々のものに人々を閉じ込めてしまいます。場合によっては、ヒューマニズム、因果応報の思想、また解脱のような違う自分探しというような思想を作り出し、その思想に人々を捕らえて神様に返ることができないように働いています。誰もこの悪魔サタンの働きを拒否することができないし、自然に当たり前染まっていくこととなります。それから、墮落や快樂などに溺れさせることで神様に返ることができないように働いているものが悪魔サタンというものなのです。目的はそのようにして最終的に、悪魔自身のために用意されている地獄に道連れにしようとしてるわけです。これは私たちの目には見えません。しかし、まぎれもない事実なのです。これが霊的な世界というところです。これが悪魔のしわざ、人間を滅ぼそうとして悪魔が仕掛けているものなのです。

2) キリストを通して人をサタンから救い出す創造主の働き

その中で創造主の神様が、悪魔サタンから人を救い出すために働いていらっしゃいます。これがまた霊の世界です。悪魔サタンから人を救い出して神様と一緒にいかにいのちを与えられ、地獄ではなくて天国へと導かれる、連れて行かれるそのような働きをしていらっしゃいます。これが霊の世界です。このような働きを神様はキリストを通してなされたし、今もなしでいらっしゃいます。この霊の世界を知らない限り、その人が幸せなのか不幸なのかを決めつけるということは愚かなことです。

3) キリストに敵対し暴れるサタンの抵抗

だから霊の世界においては、この神様の働きに抵抗して、つまりキリストに敵対してこの働きがうまくいかないようにサタンが暴れて抵抗します。あらゆることを通して。これが霊の世界です。世の中には戦争が起きたり、自然災害があったり、政治の変化があったり、文化が変わったり、経済が動いたり、さまざまなことがあります。その裏で霊の世界ではこのような動きがあるということを忘れてはいけません。表面に表に現れるすべての裏で、このような霊の世界が動いているということを知らない限りは、何が正しいのか、何が間違っているのか判断することすべてが間違いであり、愚かなこととなります。悪魔サタンはキリストに抵抗して、そのキリストによる救いの働きがうまくいかないように暴れるわけです。

4) サタンの抵抗さえも救いに用いられる神様の絶対主権

しかし、霊の世界においては、そのサタンの抵抗さえも神様の救いの働きに用いられるようになります。これを指して神様の絶対主権と言います。今日の聖書を見ますと、イスカリオテ・ユダが悪魔に誘われて、キリストを裏切ることでキリストは十字架にかけられることとなります。悪魔の狙った通りになります。それに対してイエス様は、悪魔がいくら暴れて、いくら抵抗しても、それは契約のみことばに預言されている通り、つまり予定通りであり、計画通りなんだと。悪魔サタンの暴れることでさえ予定通りであり、計画通りなんだと。神様の主権を超えることは存在しません。イエス様がおっしゃったことはそのような意味なのです。

5) キリストかキリストに抵抗するかで幸いかわざわいが…

なので誰が幸いで、どの人生が幸いなのか、そうでないかということは、この神様の働き、救いの祝福の働きに預かる人を幸い、そして、この神の救いの働き、キリストを通してなされる救いの働きに用いられる人、その人生こそが幸いなのです。逆に何がわざわいなのかと言いますと、今まで申し上げました、冒頭で申し上げました理不尽なこと、到底耐え難いつらいことがあるからわざわいではなくて、霊の世界の中で悪魔サタンの世界にとどまっていることがわざわいであり、一歩進んで今日のユダのようにキリストに抵抗する、救いを邪魔しようとしている悪魔の働きに加担して用いられることがわざわいなのです。クリスチャンでもこのような見分け方をしている人がほとんどいません。だから、何かがあれば悲しむ。何かがあればハレルヤ。自分自身を保つことができません。年中、一生、悪魔に騙されっぱなしになります。なんと悔しいことでしょうか。もう騙されないように。つまり全部まとめると、キリストある者は幸いです。キリストに抵抗するものはわざわいなのです。これが聖書が私たちに教えている人生の幸い、わざわいの基準です。このことを本当に心に覚えましょう。ならば、このようなメッセージが私たちのものになります。

2. 信者は無条件「生まれてきてよかった！私は幸い！」と宣言する時、暗闇は砕かれる。

二番目です。このキリスト・イエスを信じてを受け入れた信者は、どんな過去があろうが、今現在どんなにつらいことがあるだろうが、信者は無条件、「私は生まれてきてよかった！私は幸い！」と宣言することができるし、そのときに暗闇が砕かれていくようになります。

これは霊的な戦いです。信者は自分に対して一点たりとも暗い目、否定的な目で見るとは騙されることなのです。何があろうが、治らない病気にかかったとしても、自分を暗い目で見るということは悪魔に騙されることなのです。人にはない大変な問題があるから私がわざわざではありません。それは悪魔が作り出した基準なのです。イエス様は今日、イスカリオテ・ユダに向かって「生まれたい方がよかったんだ。わざわざなんだ」と宣言していらっしゃいます。そのユダが病気にかかっているわけではありません。ユダは親に捨てられた人間ではありません。にもかかわらず、わざわざだと言われているんですね。ならば、どういう経験があるのか、どのような現実があるのか、それと一切関係なく、キリスト・イエスを信じている信者の私は幸いなのです。皆さんを単に慰めるためにお話しているわけではありません。これは暗闇の力が砕かれるかどうか、霊的な戦いであることをぜひ覚えてください。

1) 価値ある存在、生きる尊い理由ある価値ある人生

もう一度申し上げます。信者は無条件、私は生まれてきてよかった。親がいくら変な親でも、私は生まれてきてよかった。たとえ親が私を捨てて去って行ったとしても、私は生まれてきてよかった。私の幸いは人間によって、条件によって、環境によって左右されるものではありません。私は無条件、価値ある存在です。私の人生は生きる尊い理由のある価値ある人生なのです。

2) キリストとの出会い

なぜそう言えるのでしょうか。条件は一つ、キリストと出会ったからです。キリストがすべてなのです。理由はこの一つの他にはありません。他に気が散っていくこと、他に神経が囚われること、それが悪魔の騙しごとなのです。Only キリストです。朝目覚めたときに体の調子がどうであろうが、「よかった。私は幸い。今日の日も生きる理由ある、尊い理由ある価値ある人生なんだ」と目覚めた時にすぐに宣言するようにしなければなりません。今日の日も悪魔に騙されないで、キリストを握って勝利するようにしましょう。

3) 今までの自己評価の材料、全否定

なので、今まで自分はああだ、こうだといろいろ評価して来た内容、またその評価の材料などがあったと思います。それに対して心から全否定するようにしましょう。これがいやしです。全否定しましょう。もし今日のこのみことばが皆さんに刺さって、なるほど、本当にそうなんだと思えた場合には、皆さんはいやされます。これから皆さんの人生は暗闇の中でアップアップして、どうすりゃいいのか、なんでだろうとかいうモヤモヤは終わり、むしろ光が刺さってきて、暗闇による霊的、肉体的なカビが全部消えてなくなり、暗闇の中でどうするかというさまよう人生が終わり、これからは光を放つ発光体になるわけです。皆さんは発光体なのです。あなたがたは世の光ですと言われている者、宣言されている者なのです。なぜ自分のことをそのように思えないのでしょうか。理由は一つしかありません。悪魔の騙しなのです。サタンをやぐらがまだ丈夫に皆さんの内側に立っているからなのです。みことばを握って戦いましょう。「違うよ。キリストと出会ったので私は幸いなんだ。イスカリオテ・ユダとは反対なんだよ」と思いきり宣言しましょう。

4) これから何が起きてもそれで評価しない

それから、これから何が起きても、それによって自分を評価してはいけません。何が起きても私は幸いなのです。私は生まれてきてよかったものなのです。これは永遠に変わることがありません。その大前提の上で何が起きても見ると、すべて働かせて益となるものになります。これがクリスチャンです。イエス様を信じるということは、そういうことです。一度でもいいからそのような思いでこのみことば握って、自分自身と向き合って取り組んでチャレンジしてみてください。私たちの教会は生まれながら傷だらけの人が集まりました。神のいやしが必要なのです。神は皆さんを愛して、キリストを皆さんのために十字架に引き渡されました。そのキリストによって皆さんは幸いのです。他の評価の材料などはあてにしていけません。

5) RT7 人

聖書のレムナント 7 人はその代表的なサンプルであり証拠なのです。ヨセフのことをご存知ではないでしょうか。幼い頃に母親を失いました。それから家庭内暴力を受けて、腹違いの兄たちからいじめを受けていました。それに留まらず、奴隷として売られてしまいます。しかも奴隷で成功するかと思いきや、濡れ衣を着せられて刑務所に入ることとなります。その波乱万丈な人生の旅の中で、ヨセフがその都度、その都度「なんで私はこうなのか？もう生まれたいほうがよかったんじゃないのか」と思っても不思議ではないそういうことの続きだったにも関わらず、一度もヨセフはそういうことで自分を評価したことはありません。いつでも私は幸い。私は生まれてきてよかったものなんだ。これから必ず神様が私を用いて神様の救いの働きをなさるということを忘れたことはありません。環境が状況がどう変わろうが、それは変わりません。だから、絶対契約と言います。ダビデは兄弟の中で一番末っ子だという理由で、みなが嫌がる汚い仕事、羊飼いの仕事を任されっぱなしでした。「なんで私は末っ子として生まれて、こんなことばかりになるのか」といくらでもつぶやけるような状況です。そして、ゴリアテを倒して勝利を収めてイスラエルを助けたにも関わらず、サウル王が悪霊に取り憑かれて、逃亡者の人生を歩くことになりました。「なんで私は悪いこと何もしてないのに、こういう目に遭わないといけないのか」といくらでも思えるでしょう。しかし、ダビデは一度もそのように自己嫌悪に陥ったことはありません。そうだったにもかかわらず「主は私の牧場の羊飼いであり、私は幸いなんだ。生まれてきてよかったんだ。必ず私を通して神様は人を救われる働きをなさるんだ」という希望を失ったことはありません。晩年にダビデはおおきな過ちを犯します。それで悔い改めます。しかし、だからといって、だから私は生まれたいほうがよかった、ダメだとは思いませんでした。にもかかわらず私は幸い。生まれてきてよかった。これから神様より大きなことを私を通してなさるだろうという希望の約束を忘れたことはありません。初代教会はガリラヤ出身の集まりです。当時、ガリラヤ出身というのは、ガリラヤから良い人は生まれることはないだろうということわざがあるほどでした。そういう指さされる、無視される人々ばかり集まっていて、その構成のメンバーを見ますと、売国者、娼婦等々の人々が集まっていました。彼らは自分たちがだからといって「だから私は生まれたい方がいい。私はダメだ」とは思いませんでした。オリブ山で復活のイエス・キリストのお話を聞いた後、そういったすべてを振り払って、「私は幸い。私は生まれてきてよかった。これからの人生、生きる理由ある最高の価値ある人生なんだ」と信じて、そのことがこれから始まるように祈りに専念していたわけです。パウロは普通に自己評価をしていた、誇りに思っていたすべてをちりあくと宣言し、四方八方から苦しめられる中でも私はもうだめなんだとは思わずに、私の中に宝のキリストがいらっしゃるから私は幸いなものなんだ。人々に指さされても石を投げられても倒されることがあっても、それで自分を評価することなく、にもかかわらず私は幸いなものなんだ。私は生まれてきてよかったんだ。これから私を通して刑務所の中でローマを変える神の働きが待っているんだということを忘れたことはありません。皆さんが弱いから、今の立場が今の状況が険しいから、神の約束が弱まったり変わったりというようなことはありません。これがクリスチャンの特権であり、またクリスチャンのあり方なのです。騙されないように。

なので、今日限り、「これからまたミスするときもあるでしょうけれども、すぐに戻りましょう。」私は幸いと日々、告白して感謝しましょう。これは義務ではありません。戦いなのです。そして特権です。そこからスタートしないと、その次は全部ズレてしまいます。そこからスタートしないと祈りも祈りになりません。祈れないし、祈るといっても祈りではありません。なのでまず何をどういうふうに願うか以前に、キリストにあって私は幸いなんだ。私は生まれてよかったと自分を励まして褒めてあげましょう。これは心理学的な話ではありません。悪魔との戦いなのです。その感謝を持ってこそそうでない世の中の人々、周りの人々を見たときに、わざわざの人々に見えてくるわけです。その人が社長であろうが、教授であろうが、どんなに善良な人間であろうがわざわざなのです。そのわざわざの人々に真の幸いがある何かをおあかしすること、それを決心するようになり、それを人生の軸にするようになり、それが祈りの課題になります。そのときに加えてすべて与えられることを経験するようになるでしょう。それもないまま、「あ、加えて与えられんだ。いつ与えられるんだろうか」とそればかり期待する、聖書にそういう話はありません。神様の目標は私たちなのです。また、わざわざに囚われている人々が救われることなのです。皆さんはその人々の救いのために用いられる宣教師としてみな召されているわけです。なのに、自分が幸いだということも分かっていないで、どうして宣教の働きが始まるのでしょうか。そちらの方に興味が持てないし、見向きもしなくなります。悪

魔の最高の策略なのです。現場と私たち、救われるたましいと私たちの間に大きな不信仰の壁を作って邪魔するわけです。私は問題だらけの弱い人間だから、とにかくこれに閉じこもって、これをどうにかしようとする事で信仰生活を営むように、それで人生終わるように。どんな問題があるのでしょうか。それでも自分を否定するような材料にはなりません。私は幸いです。それをずっと告白しましょう。脳細胞に刻印されるまで。たましいに刻印されるまで。その時に初めて発光体の威力が現れることとなります。それで神様から私たちに与えられた最高のプレゼントを感謝して、それを固く握りましょう。どういうプレゼントが与えられたのでしょうか。キリストがプレゼントなのです。そして、そのキリストが与えられているものには、御座の祝福とともに聖霊のプレゼントが与えられています。その聖霊の祝福に預かりますと、人を生かす誰もできない証人として生きるプレゼントが許されています。これが神様からのプレゼントなのです。値なしに与えられているものなのです。それが皆さんに与えられているのです。感謝しながら固く握って、それが祈りに変わっていくように。それでヨセフを見て「あの人は神がともにおられる幸いな人間なんだな」と見てわかるように、本当に周りの人が見たときにそうなることを信じて、今日もこの契約を固く握って神によって造られた自分と向き合う信者になりましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。悪魔は人間的な条件、環境、状況によって自分を評価するように、人々を評価するように騙していますが、今日の聖書箇所を通して、まず霊的世界に目が開かれて、何が幸いで何がわざわざいなのかをしっかりと見極めて、自分自身を幸いなもの、生まれてきてよかったと宣言できるクリスチャンとして堂々と歩いて行けるように。それで何ものにも囚われることなく、次のステップに聖霊が臨まれると、力を得て、地の果てにまで証人となる、その次のステップに進んでいけるようにひとりひとりを祝福してください。そのような十分な資格があることを主が悟らせてください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン